



国際図書館コンソーシアム連合の 活動

- ICOLC#12の報告を中心に -

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp



ICOLCとは

- ICOLC: International Coalition of Library Consortia
- 図書館コンソーシアムの非公式連合(1997～)
- 160以上のコンソーシアムが参加(北米, ヨーロッパ, オーストラリア, アジア及びアフリカ)
- 国立大学図書館協議会(2001～)



ICOLCの使命

- メンバー・コンソーシアムに対する情報提供
 - 電子情報資源
 - 出版者や情報供給業者の価格ポリシー, ライセンシング
 - コンソーシアム管理運営上の諸問題



ICOLCを支える2人



Tom Sanville
(Executive Director, OhioLink)

Ann Okerson
(Associate University Librarian, Yale University)





ICOLCの活動

- Meetingの開催
 - ICOLC (北米中心)
 - 1997年以来, 年2回
 - e-ICOLC (ヨーロッパ中心)
 - 1999年以来, 年1回
- ホームページ
 - <http://www.library.yale.edu/consortia/>
 - 非公開ページ
- メーリングリストの運営



主なガイドラインと声明

- 「提案条件の要求と契約交渉における技術的諸問題に関するガイドライン」(1999.1)
- 「電子的情報の選択と購入をめぐる現在の情勢と望ましい方向への実行策に関する声明(改定)」(2001.12)
- 「ウェブベースの情報資源の利用に関する統計的測定ガイドライン(改定)」(2001.12)



ICOLC#12

- 2002年9月19日～21日
- 米国ナッシュビル
- 参加者90名(米国76名, カナダ11名, 日本2名, オーストラリア1名)



ICOLC-Meetingの構成

- グリル
 - Grille: 厳しい尋問
 - 出版者やベンダーのプレゼンテーション
 - 質疑応答
 - これまでに, 76社を対象とした127回のグリルを実施
- 討議トピック
- パネルディスカッション
- 運営協議 (ビジネスセッション)



Agenda(9/19)

- OCLC Question Point **グリル**
- Digi-Net **グリル**
- **第1回運営協議**
- **第1回討議トピック**
 - A. 予算削減への対応
 - B. 協調型デジタルレファレンス



Agenda(9/20)

- Films for the Humanities **グリル**
- Consortialink **グリル**
- Berkeley E-Press **グリル**
- Taylor & Francis **グリル**
- Books24x7 **グリル**
- **第2回討議トピック**
 - C. 図書館と授業管理システムとの連携統合
 - D. 電子リポジトリの構築
- **パネルディスカッション**
 - **アーカイブと恒久的利用権**



Agenda(9/21)

- Sageグリル
- Association of Learned and Professional Society Publishersグリル
- 第2回運営協議



主要テーマ

- 電子ジャーナルに関する話題
 - コンソーシアム向け提案
 - アーカイブと恒久的利用権
 - 探索・管理ツール
- 協同デジタルレファレンス
 - ツール
 - Ready for Referenceプロジェクト
- 機関リポジトリ
 - 構築ツール
 - e-Scholarshipプロジェクト



EJコンソーシアム提案

- 大手商業出版社からの提案
 - Taylor & Francis
 - SAGE Publications
- 小規模出版者のコンソーシアム化
 - Consortialink
 - 14社のコンソーシアム(266タイトル)
 - 学協会出版者協会(ALPSP: Association of Learned and Professional Society Publications)
 - 中小学会系出版者統合の可能性についての調査



アーカイブと恒久的利用権

- ACS
 - ACS Journal Archives(1879年まで遡及)
- Elsevier
 - 4タイプのアーカイブ(社内アーカイブ, デファクト・アーカイブ, ナショナル・アーカイブ, オフィシャル・アーカイブ)
 - 世界初のオフィシャル・アーカイブ(オランダ国立図書館)
- LOCKSS
 - 分散アーカイブプロジェクト
 - 2002年9月からベータテスト第2期
 - 2004年冬に製品化
- JSTOR
 - Born Digitalな資料のアーカイブを検討中



電子情報資源の特定・管理ツール

- Gold Rush
 - 電子情報資源の管理・アクセス支援システム
 - Colorado Alliance of Research Librariesが開発
 - ジャーナルタイトル・データベース
 - 50,000誌 (400社)
 - 定期的に更新
 - 2つのインターフェイス
 - パブリック・インターフェイス
 - 管理用インターフェイス
 - 2003年からライセンス販売を予定



協同デジタルレファレンス

- 今, アメリカでもっともトレンドなテーマ
- ICOLC#12の「舞踏会の花」(Ann Okerson)
- デジタルレファレンス
 - コンソーシアムによる共同サービス
 - チャットによるライブレファレンス(同期型レファレンス)
 - 24x7
 - 知識ベースの構築



ツール

- Question Point
 - OCLCが提供するデジタルレファレンス・サービス
 - LCを中心としたCDRSプロジェクトから発展
 - 3つの構成要素
 - ローカル・ネットワーク(コンソーシアム内)
 - グローバル・ネットワーク(地球規模の協力体制)
 - 知識ベース(質問回答のアーカイブ)
 - 機能
 - チャットとメール, ブラウザやドキュメントの共有, 他のレファレンスシステムとの連携
- eLibrarian
 - Digi-Net社がOhioLinkと共同開発
 - 2つの利用形態
 - ライセンシング(自前のサーバ)
 - ホスティング(Digi-Net社のサーバ)



Ready for Reference

- イリノイ州のAlliance Library Systemの9大学の協同レファレンス・プロジェクト
- LSSI (Library Systems and Services, LLC)のバーチャル・レファレンス・ソフトウェアを使用
- 1日24時間, 1週7日のライブサービス
 - LSSIのバックアップ・レファレンス・サービス



機関リポジトリとは

- 機関リポジトリ(Institutional Repository)とは
 - 大学や研究機関の研究成果(論文、教材、データセット、ソフトウェア等)を蓄積・発信するためのサーバ
- 意義
 - 研究成果のvisibility(顕在性)と速報性の向上
 - 学術研究成果の長期保存
 - 学術コミュニケーションシステムの変革促進
 - 商業出版社の独占 研究者・図書館主体のシステム



海外の先行例

- [DSpace](#) (Massachusetts Institute of Technology)
- [eScholarship](#) (California Digital Library)
- [CODA: Caltech Collection of Open Digital Archives](#) (California Institute of Technology)
- [Knowledge Bank](#) (Ohio State University)
- [Glasgow ePrints Service](#) (Glasgow University)
- [FIGARO](#) (Utrecht University)



Berkeley E-Press

- カリフォルニア大学バークレイ校の3名の教授が設立した出版支援サービス(ソフトウェア)
- 使命
 - 現在の学術コミュニケーション・システムのコストを引き下げ, 研究者主導の出版システムを支援
 - 査読誌 + プレプリント, ワーキングペーパー, 学位論文
- CDLのeScholarshipが採用



e-Scholarship

- <http://repositories.cdlib.org/escholarship/>
- CDL: California Digital Library
- カリフォルニア大学の社会科学系及び人文科学系のワーキングペーパーのリポジトリ
- Berkeley E-Pressのソフトウェアを使用
- 25を越える研究ユニットが参加(600ペーパー)
- 週平均1,500のフルテキストがダウンロード



今後の会合の在り方

- 今後の開催予定

- ICOLC#13 2003年3月 ラスベガス
- ICOLC#14 2003年9月 ラホーヤ
- e-ICOLC 2003年秋 コペンハーゲン

- 2004年以降

- 毎年, 米国1回, ヨーロッパ1回



ICOLCとe-ICOLC

- アメリカとヨーロッパのフォーカスの違い
 - アメリカ
 - 「グリル」が中心
 - ヨーロッパ
 - 「グリル」と情報共有や議論のためのセッションのバランスに配慮
- e-ICOLC側の懸念



提言(1)

- もっと多彩なコンソーシアム活動を
 - 電子情報資源の共同購入
 - 電子ジャーナルやデータベース(だけでなく)
 - 電子ブック
 - 視聴覚教材
 - デジタルレファレンス
 - 機関リポジトリ
 - 情報リテラシー教育支援



提言(2)

- 国際連携の推進
 - 国際会議(ICOLC , e-ICOLC , ISCA)への継続的参加の必要性
 - 日本からの情報発信 , 貢献の必要性